Toyota City Museum
Of
Local History

豊田市郷土資料館だより

No.113

豊田市十塚町付近（昭和 47 年 7 月）

豊田市郷土資料館付近（昭和 47 年 7 月）

目次

最終企画展／昭和 47 年 7 月豪雨から 50 年
土石の川も美田へと 2

世界を知る楽しさ
松井孝宗さんからいただいたもの 3

郷土資料館職員の応援の記憶
新型コロナ禍の記憶 4

民具調査だより 34
謎の石臼は、精麦機の搗き臼だった…。 5

令和 3 年度事業報告 6.7

とよたの新しい博物館
建築工事が始まりました！ 8

ISSN 0919 - 0120
202207 No.113

最終企画展　昭和47年7月豪雨から50年　土石の川も美田へと

水没した道路

突然ですが、この写真、どこを撮影したものでしょう？

よーく見ると……。そうです！郷土資料館の北側の道路が写っているのがわかりますか？反対側には、昔の図書館も写っています。

この写真は、50 年前の写真です。資料館北側の道

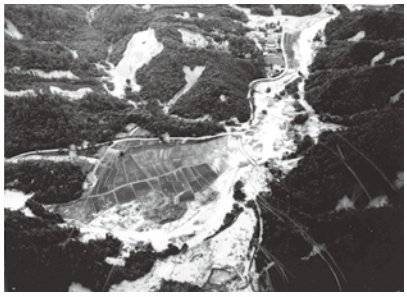
が水没していることが分かります。この写真が撮影されたのと同じ時、当時の小原村・藤岡村を中心に未曽有の被害に見舞われた「昭和 47 年 7 月豪雨」が起こりました。

昭和 47 年 7 月豪雨

昭和 47 年（1972）7 月の梅雨は、いつにない長雨が降り続いていました。こうした状況で、7 月 9 日午前、梅雨前線は段々と南下をはじめ、10 日には本州南岸に停滞しました。12 日午後から、前線はゆっくり北上し、東海地方に停滞、20 ～ 30km 程度の狭い幅の線状降水帯が発生し、美濃・三河山間部を覆いました。

12 日深夜から 13 日未明にかけては、「バケツをひっくり返したような」雨が降り続き、時間雨量 77mm、日雨量 284mm（7 月 12 日 9 時～ 13 日 9 時）を記録しました。この雨量は、当時 50 年ぶりに記録を更新したほどの激しいものでした。

この記録的な雨の中、当時の小原村・藤岡村はもちろん、旧旭村や旧足助町にも被害が及び、現在の豊田市域では、あわせて 63 人の尊い命が失われ、行方不明者も 4 人にのぼりました。災害の様子を綴った当時の子どもたちの文集には、こんな言葉が書かれています。



木瀬町付近

「ぼくは、あの夜いつもと同じところに寝た。目がさめたら、どろの中に頭をつっこんでいた。」

あたりまえの日常が一瞬で失われてしまった様子が端的に表されています。

豊田市では、「47（ヨンナ）豪雨／災害」と呼ばれ、被害の大きさが伝えられてきましたが、実はこの年の同じ月は全国各所で集中豪雨が多発しており、全国で死者 421 人、行方不明者 26 人、負傷者 1,056 人を数える、当時でも稀に見る災害の月であったといえます。

復旧ではなく復興ー土石の川も美田へとー

昭和 47 年 7 月豪雨では、「復旧ではなく復興」というスローガンを掲げ、いち早い復興を目指しました。昭和 50 年 1 月の「広報ふじおか」には、「土石の河も美田へと」というタイトルのとおり、災害から 3 年ほどで災害復旧工事の目途が立ったことが謳われています。

7 ―― 広報ふじおか

土石の河も美田へと

災害復旧の足跡

民間被災者の実態調査

備えあれば憂いなし

左の写真は、避難所に設置された間仕切りシステムの様子です。このシステムは、避難所での良好な生活環境などが確保されることを目的としています。

避難所用間仕切りシステム

豊田市では、このシステムの供給に関する協定を NPO 法人ボランタリー・アーキテクツ・ネットワーク（（仮称）豊田市博物館の設計者である坂茂氏が設立）と令和 2 年（2020）6 月に締結しました。これから起こるかもしれない災害への備えも進んでいます。

郷土資料館閉館前、最後の企画展にぜひ足をお運びください。

（名和 奈美）

世界を知る楽しさ —松井孝宗（まついたかむね）さんからいただいたもの—

松井孝宗氏

泥まみれの試掘調査

先日、娘と県外に住む姪とで豊田スタジアムのプールへ行き、その後、隣接する中央公園（千石町）で遊びました。平成９年（1997）の冬、中央公園として整備された今の姿からは想像もつかない広大な農地に、重機を使用して全 102 か所、総延長約 760m、最も深い所では、地表下 5.8m に及ぶ試掘溝（トレンチ）が掘削されました。この試掘溝に降り、短時間で崩れる試掘溝の壁と足元からの湧水に対処しながら土層観察と遺構の有無確認をするのが、当時考古学専攻の大学院生として調査に参加していた私でした。泥まみれになって試掘溝から這い出て、地上に戻り安堵しつつ、作業着姿の松井孝宗さんに報告へ。「お疲れさん、で、どう？」と問われ、説明すると、「そうか」と淡泊な返事。そして松井さんはゆっくり沈思黙考。泥濘（ぬかるみ）に足を取られる現場作業に辟易していた私は、「本当に分かっているのかな？」と内心ウンザリしたことを今でも思い出します。

試掘調査を踏まえ、平成９年度に千石遺跡の本調査が実施されました。その結果、千石遺跡は、矢作川左岸の氾濫原となる沖積低地内の微高地に営まれた、縄文時代から近世の遺跡として認識されるようになりました（豊田市教委『千石遺跡』1999）。河川氾濫の堆積作用により地下深くに埋没してしまう低地の遺跡は認識しにくいものです。松井さんが、試掘溝からもたらされるわずかな情報を基に存在を追求していたのは、当時の人が居住地点として選んだであろう沖積低地内の微高地だったのです。松井さんとの調査の経験は、後の市内における低地調査（豊田市教委『今町宮之後遺跡』2010・豊田市教委『亀首遺跡』2011）へと継承され、大きな成果を上げました。

松井孝宗さんのこと

令和３年（2021）11 月に松井孝宗さんがご逝去されて半年以上が過ぎました。松井さんは、昭和 24 年（1949）、川面町（豊田市足助地区）で出生、愛知県立足助高等学校を経て、駒澤大学仏教学部に進学。同大文学部考古学専攻の助教授だった考古学者倉田芳郎氏（歴史考古学）の薫陶を受け、同大をはじめとした様々な大学の考古学徒と交友を結び、上ノ台遺跡（千葉県千葉市）の発掘などで活躍し、昭和 53 年（1978）、豊田市役所へ就職しました。

松井さんと話をしていると、ご専門であるはずの古代集落遺跡や仏教文化に関する話題に留まらず、北方文化や地理学に及ぶ広い関心に驚かされました。また、後に郷土資料館の展覧会へと結実する「牧野義雄・敏太郎」展（1983）、「川船と中馬」展（1985）や、ご退職の年度に開催した「塩の歴史と民俗」展（2009）など、歴史・民俗・美術にも及ぶ視野の広さは驚嘆に値します。「もっと勉強しなさい」との声に急（せ）き立てられ私が懸命に取り組んだことの一つが、後に国名勝として指定された旧龍性院庭園（猿投町）の調査でした。この仕事は、今後も豊田市の文化財行政が取り組んでいく大きな宿題です。

松井さんの寄贈図書

ご逝去される前年の夏、松井さんが所蔵する多数の図書を、新たに整備する博物館へご寄贈いただくにあたり、松井さんがご住職を務められる川面町の龍宝寺へ４度ほど足を運びました。平成 22 年（2010）のご退職後、私の携帯電話に突然やってくる「ミスター松井ですが…」から始まるお誘いを受けて年１～２回ほど開催していた酒席もここ数年は滞り気味。「ここにはコロナウイルスはいないからね」と笑う松井さんの顔は晴れやかで、密（ひそか）に安堵しました。松井さんの闘病については、平勝寺（綾渡町）ご住職である佐藤一道師が『矢作新報』のリレーエッセイ（2021.11.26）に寄稿されており、「死んでどんな世界に行くのか楽しみでもある」という松井さんの言葉を書き留めていらっしゃいます。本気か冗談か、諦念か希望か分からない松井さんらしい一言です。人文・自然科学の様々な領域に及ぶ図書は、松井さんの「世界を知る楽しさ」を体現するもので、それらを手に取ると松井さんの決して多くなかった言葉から学んだ四半世紀を振り返る思いです。

龍宝寺で営まれたご葬儀は、地域の方々が総出で交通整理・受付・司会などを執り行う心温かいものでした。「孝宗君が高校生の頃発掘した、大屋敷遺跡（川面町）の縄文土器の写真をお棺に入れて欲しい」との電話をいただいたことや、山間の深い闇の中での葬儀の最中、突然鹿の声が聞こえてきたことなどと合わせ、心に残る別れとなりました。

地域や檀家、地区のお寺の方々に愛された松井さん。次にお酒をご一緒する時は、あちらの世界の遺跡や人々、暮らしのことを教えていただきたいと思います。松井さんの寄贈図書は、新しい博物館で多くの方々にご覧になっていただけるよう、今年度から整理作業を進めていきます。

（髙橋健太郎）

新型コロナ禍の記憶 ―郷土資料館職員の業務応援の記憶―

パンデミックと生活の変化

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行というパンデミックが令和２年（2020）に始まってから、２年以上が経過しました。令和４年６月 14 日現在、世界の感染者は５億 3,575 万人超で、約 631 万人が死亡。日本でも 904 万人超が感染し、３万人超が死亡する事態となっています。度々発生している変異株の存在は、パンデミックの終息を遠のかせているようにすら感じさせます。

この間を振り返ると、私たちの生活様式や人と人とのふれあいのあり方が、大きく変容したことが実感されます。マスクの着用・検温・手指消毒の励行、会食・会議時のパーティションの使用、リモートワークの一般化などは最も身近な変化でしょう。

社会的な動物である人間の営みは、寄り合うことを基盤とし、伝統的な行事や文化の多くでも、人々が集まることを前提としています。パンデミックはここにも大きな影響をもたらしています。

例えば地域の祭礼や行事の中には、この２年間開催できず、その継承が問題となる状況も生じつつあります。

その他、茶の湯では、濃茶（こいちゃ）を飲む場合、客の人数分を一碗に点ててまわし飲みすることになっています。濃茶が冷めないように全員が飲め、客同士及び主客の精神的な紐帯（ちゅうたい）を形成するうえでも、この方法が最も合理的な作法であったのです。パンデミックを経験している今、この濃茶のまわし飲みは、少人数の茶事以外では復活できない状況にあります。伝統的な分野にも、時代に応じた変化が求められているのです。

（仮称）豊田市博物館とパンデミックの記憶

令和６年に開館を予定している（仮称）豊田市博物館（以下「博物館」）では、市域の歴史・民俗・自然を語るために必要な資料を収集・公開することを目的のひとつとしています。

その資料とは、これまでの文化財施設が取り扱ってきた実物の資料だけにとどまりません。博物館では、過去を生きた人々の、そして今を生きている人々の「記憶」も収集対象資料です。

博物館準備室で行っている「記憶あつめるプロジェクト」では、これまで、さまざまな内容の記憶 500 件以上が寄せられています。これらは全て重要な資料として博物館に蓄積され、展示や研究に活用される予定です。

このプロジェクトに寄せられた記憶には、パンデミックに関することや、そこで感じたことも含まれています。強烈なインパクトをもって生活の変化が迫ってきたことや、その変化を受容するまでの葛藤の記憶は、未来の人々に生きるヒントを与えることでしょう。

パンデミックにおける業務応援

市民の生命・生活に影響が及ぶような事態が発生した場合、それらへの早急・的確な対応及び行政の円滑な遂行のため、事案の担当部署の枠を超え、様々な部署から職員が集まって業務応援を行うことがあります。

この度のパンデミックでは、郷土資料館職員も市の行政職として保健所の業務などを応援しました。以下、私の応援経験を記憶として博物館にアーカイブしたいと思います。

❶豊田市新型コロナウイルスワクチン接種コールセンター業務（令和３年７～８月）

新型コロナウイルスのワクチン接種が喫緊の社会的課題となっていた令和３年夏、豊田市ではワクチンの集団接種や、接種の予約に関する全般的な問合せを受け付けるコールセンターを設置していました。私は同年８月初旬に電話窓口担当として応援業務に従事しました。

市民からの問合せ内容は実に様々でした。集団接種・個別接種の予約方法、個別接種の予約を受け付けている最寄りの医療機関に関する問合せが多く、中には市外に一人暮らししている子どもを案じて早く接種させたい、という親の切実な声もありました。

❷疫学調査業務（令和３年９月～令和４年３月）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対応するため、感染者を主対象に、感染状況の確認や健康観察などを電話で行うのが保健所の疫学調査です。私は８回程度この調査に従事しました。

調査方法が日々改善され、応援に行くたびに聴取内容が変化し、適応するのが大変でしたが、感染者本人の声を直接伺う貴重な機会でした。感染者が一様に自分以外の家族への影響（濃厚接触者としての待機期間や、健康について）を心配していたことが印象的でした。

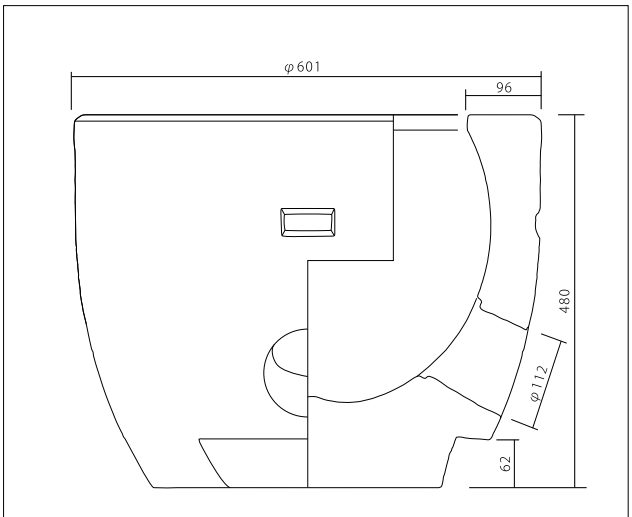
❶・❷に共通することとして、日本語を母語としない方々への対応が大変多かったことがあります。パンデミックにおいて、こうした方々へのケアが必ずしも十分でない現実や、多様な国籍・バックグラウンドをもつ市民によって豊田市が構成されていることも、つくづく痛感させられました。　（倉林重幸）

謎の石臼は、精麦機の搗き臼だった…。

3年ほど前のこと、郷土資料館に見学にきた小学5年生の児童が、郷土資料館に併設されている民俗資料館（移築民家）の裏手北側に置かれている石臼を見て「この石臼の下側に大きな穴が開いているのはナゼですか？」という質問をくれました。とても大きな石臼がその場に置かれていることは承知していましたが下部に設けられた穴には気づくことなく十数年過ごして来てしまいました。改めて穴の空いた石臼の素性を探らなければなりません。資料台帳で調べれば答えが見つかるであろうと登録番号の注記を探しましたがどこにも記されていないようです。さらに資料名を特定しないことにはデータ検索にもかけられません。困ったぞ！　八方塞がりである。手持ちの資料に当たっても芳しい答えがでてこない。奄美には“石風呂”というものがあるようだが、風呂ほどは大きくないので却下！ひょっとして下の穴は竈の焚き口なのではないのか、大きな羽釜やハソリなんかが掛けられる…。でも穴は内から外側に向かって30°ほどの傾斜が付いている。さらに穴には焼け焦げた痕跡などは微塵も無い。これも却下！　先が見えない…。謎だけが深まる。

そんな折、滋賀県の愛荘町立歴史文化博物館を訪ねる機会を得、催しものの見学を終えての帰り道、歴史文化博物館のエントランスに酷似した石臼が置かれているのを目にしました！　信楽製でしょうか、大きな甕と並んでそれはありました。「大甕は染料用の甕で、石臼は発酵させた葉藍を搗き藍玉を造るための石臼なんだ」と一人合点し大喜びで帰路についた次第でしたが、後日染めや藍について調べてみると藍玉造りの石臼には穿かれた穴はないようです。一層謎が深まるという結果に。

愛荘町歴史文化博物館の石臼と大甕



豊田市郷土資料館の石臼／花崗岩製

先に進めない中、近隣の刈谷市郷土資料館の前庭に酷似した石臼があるのを思い出しました。ただ刈谷市郷土資料館でもこの石臼に関する記録は無く、どのような経緯で寄贈されたものであるかは不明とのことでした。 う～ん残念！

刈谷市郷土資料館の石臼

外－Wφ606　内φ415
外－H470　内H340　孔Wφ110

八方塞がりの中、張り巡らした情報網の内から朗報が届きました。「山梨の豊富郷土資料館のブログに似たようなものの書き込みがあったよ」と。以下、豊富郷土資料館にいただいた資料を提示します。

麦や裸麦の外皮は厚く、硬く、しかも溝条も深いので、搗精（搗いて精麦）するのは、精米用の普通の搗き臼では、一俵一日もかかったと言われています。この機械は大麦や裸麦を精白して麦飯にするための丸麦を得るための道具です。麦の外皮は厚く硬いために、精白作業には大麦5～7%、裸麦4%程度の水を加えて外皮を柔らかくしながら精白作業を行うそうです。それでも摩擦熱で相当熱くなったと言います。

ベルトで鉄製の搗歯を回転させこねるように精麦をします。謎の石臼は精麦に用いる“搗き臼”でした。

（東海民具学会 岡本大三郎）

令和3年度 文化財保護事業報告

1　文化財保護審議会　4 回
・（仮称）豊田市博物館整備事業の進捗について
・旧平岩家住宅の市文化財指定について　など
・文化財防火デー：六鹿会館

2　伝統的建造物群保存地区保存審議会　2 回

3　指定文化財の指定・解除
〔市指定〕
・旧平岩家住宅（有形民俗）　指定
・川原宮謁磐神社本殿及び摂社八幡神社本殿（建造物）
　県指定に伴う市指定解除

4　埋蔵文化財保護の概要
○埋蔵文化財等の照会・届出
・埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の有無照会　575 件
　（令和元年度　645 件、令和 2 年度　578 件）
・遺跡内での開発の届出・通知　合計 101 件
　（民間　74 件・公共　27 件）
　（令和元年度　116 件、令和 2 年度　125 件 ）

○調　査
・範囲確認調査、試掘調査等　5 件
・本調査　1 件

遺跡名（所在地）	調査原因	調査面積（㎡）	主な遺構
伊保廃寺（保見町）	学術	35 ㎡	基壇

○シンポジウム
「伊保谷からみた豊田市の古代」（主催：名古屋大学・豊田市）　参加者　120 名

○発掘調査報告書刊行

調査風景の様子

第 87 集『塩狭間窯跡』
第 88 集『寺部遺跡』
『伊保廃寺発掘調査報告書』
『令和 2 年度市内遺跡発掘調査事業概要報告書』

5　文化財等保存維持・修理補助事業
・有形文化財保存修理　4 件
　（小原川見薬師寺・隣松寺・中金岩倉神社農村舞台・足助八幡宮）
・有形民俗文化財保存修理　2 件
　（足助田町山車・挙母神社本町山車）
・史跡名勝天然記念物保存整備　2 件
　（稲武八幡神社スギヒノキ合体木・稲武大安寺シダレザクラ）
・有形民俗文化財保存維持　14 件
・無形民俗文化財保存維持　21 件
・伝統的郷土芸能保存維持　11 件
・伝統的郷土芸能保存修理　4 件
　（足助田町お囃子会・霧山囃子保存会・挙母神楽保存会・石野歌舞伎保存会）
・郷土の先人顕彰活動　3 件

6　史跡・名勝・建造物等整備・修理
・百々貯木場樋門スクリーン設置
・平井大塚古墳石碑移転
・不動古墳支障木伐採
・稲荷塚古墳支障木伐採
・杉本の貞観スギ樹勢調査
・丸根城址土地測量

7　計画等策定
・（仮称）豊田市博物館新築設計（令和元～ 3 年度）
・（仮称）豊田市博物館展示・収蔵環境等設計
　（令和元～ 3 年度）

8　その他
・『山中観音堂修理報告書』刊行
・ニホンカモシカ滅失対応　80 件
・（仮称）豊田市博物館新築工事（令和 3 年度～）
・（仮称）豊田市博物館に関わる市民周知等
　　イベント出展等　4 件／ 140 人
　　自然標本あつめるプロジェクト

令和3年度 郷土資料館事業報告

1　展示・入館者数

・入館者数　10,550 人
・企画展「縄文ライフ！～ SDGs の種を探しに～」（7/6 ～ 9/26）　3,413 人
・特別展「はじめてのとよた史―『新修豊田市史』通史編刊行記念―」（1/22 ～ 3/20）　1,762 人

特別展の様子

2　資料調査

・紙屋鈴木家旧蔵資料調査

3　資料収集・複製・修復

・資料収集
　歴史資料　372 件、民俗資料　84 件、
　美術資料　141 件、考古資料　4 件、
　自然資料　961 件
・資料修復
　市指定文化財「千匹絵馬図」の修復

4　資料貸出

・他館等への資料貸出（写真含む）　73 件

5　講座ほか

・こども向け体験企画　長期休暇期間にあわせ　3 回
　春 264 人／夏 2,604 人／冬 468 人
・体験講座　まが玉づくり 80 人、川砂講座 191 人
　合計 271 人

「矢作川の砂から宝石を探そう」の様子

6　とよた歴史マイスター活動

・既認定者　70 人　活動参加者数　延べ 90 人
・マイスターが支援した連携事業への参加者数
　3,170 人

拓本講座の様子

7　郷土学習スクールサポート

・延べ 303 校／ 24,063 人の小中学生が利用

8　近代の産業とくらし発見館

・入館者数　6,996 人
・企画展　まゆまつり 2021　蚕業取締所から発見館へ－建物と百年－（4/20 ～ 7/4）　1,090 人
・企画展　綿から糸への物語－とよた市域のガラ紡－（10/22 ～ 2/27）　2,795 人
・企画展ギャラリートーク　2 回
・ものづくり講座　「まゆこいのぼり・干支まゆ人形十二支・ガラ紡糸の壁飾り」
・ものづくり体験　「素焼きコースターに絵を描こう・まゆ花クリップ・ゆらゆら水族館」「お正月飾り・えと絵馬・まゆ雪だるまのオーナメント」等
・ぶらコロモ：年 4 回開催　（名木めぐり編・路地めぐり編・グルめぐり編・運気アップ編）

企画展「綿から糸への物語－とよた市域のガラ紡－」の様子

とよたの新しい博物館
建築工事が始まりました！

令和６年（2024）開館予定のとよたの新しい博物館。令和４年１月から建築工事が始まりました。

写真は基礎工事の様子です。基礎工事が済むと、建物本体工事、各種機材の設置、内装工事と進んでいきます。建物の完成は令和６年１月の予定です。

工事の様子はインスタグラムでも発信しています。

豊田市博物館
インスタグラム

博物館準備室
webサイト

博物館に記憶を集めよう

記憶あつめるプロジェクト
募集中！

博物館準備室webサイト、またはインスタグラムで#豊田市未来への記憶2022をつけて投稿してください。

博物館開館のため　郷土資料館、
近代の産業とくらし発見館は閉館します。

郷土資料館

令和4年9月30日まで！
資料館発刊図書割引販売も開催予定

近代の産業とくらし発見館

令和5年3月31日まで！

ポスター展
9月1日から開催

さよならの向こうへ
～ポスターでプレイバック！ 資料館の55年～

閉館後も文化財課の業務は郷土資料館建物内で行います。
郷土の歴史や埋蔵文化財の問合せに引き続き対応していきます。

郷土資料館

近代の産業とくらし発見館

■豊田市郷土資料館利用案内■

開館時間　午前９時～午後５時
休 館 日　毎週月曜日（祝祭日は開館）
入 館 料　無料
交通案内　名鉄「梅坪駅」より南へ　徒歩 10 分
　　名鉄「豊田市駅」より北へ　徒歩 15 分
　　愛知環状鉄道「新豊田駅」より　徒歩 15 分
　　とよたおいでんバス「陣中町一丁目」より西へ　徒歩５分
駐 車 場　約 20 台

●豊田市郷土資料館だより　No.113

令和４年７月 15 日発行
編集・発行　豊田市郷土資料館

〒471-0079 豊田市陣中町1-21-2
TEL.0565-32-6561　FAX.0565-34-0095
E-mail● rekihaku@city.toyota.aichi.jp
URL● http://www.toyota-rekihaku.com

※豊田市郷土資料館だよりは、HP でもご覧いただけます。